



6 月 10 日号

発行元 有限会社誠光設備工業
〒663-8003 電話 0798-53-5786
兵庫県西宮市上大局 4-8-18
編集長 藤田 勉

今回は「給水台帳には装置番号も引込管も載ってるのに現場にはメーターどころか、止水栓もないやんけえ。」これってどうなん？の謎に迫ります。

皆様事業主の方も土地を仕入れる前に水道局に向いて既設管があるとかないとか調べておることと思います。あるいは、土地を紹介して下さった媒介の業者から資料をもらい、そこに宅内引込管の状況などが記載されており、それを参考に

「あつこは水道そのままでいけるな」とか、

「水道工事代かからんな」などの判断をされている事でしょう。

もちろん其の際に水道局担当者に

「これ、このまま使えまんなあ」と念を押されていると思います。

担当者も

「既設管使用願いを出せば使えますよ」とか、

やさしい担当者なら

「鉛管かどうかだけ確認しとこか？」といって個別の台帳を引っ張り出して管種や管径を調べてくれたりもします。

そこまで調べてるものですから自信满满で「水道は利用可能」の太鼓判を押すことになります。

セイコーで先日工事を行った西宮市での物件でこういったケースがありました。

工務店 Y 部長

「委託の物件なんやけど上下水道調べといて」

セイコー

「わかりました」

わたしはまず、事務所からネット

を使い西宮市の下水台帳を引っ張り出した。既設引込管、公共樹と

もになし。次に水道局に向かい給

水台帳を広げたそれが下の図である。



御覧のように給水装置番号はもちろん前面道路からの引込管、そして鉛筆書きで丁寧にビニール管の明記までしてくれてある。本管はH7と書かれているので平成7年に整備されたものである事がわかる。

わたしはこの図面を頼りに現場に向かった。確かに公共樹はない。昔に家が建っていた形跡はあるが、止水栓やメーターボックスは確認できなかった。

ここでセイコーが考えたのはこうだ。

「平成7年といえば阪神大震災の年である。その時点で建物が立ってなかった場合、震災直後忙しい中わざわざ引込管を入れるだろうか」

もう一度水道局に戻り聞いてみた。

「ここ、止水なかったんですけど、本管入れ替えた時に繋いでないんじゃないかなうん？」

担当者

「そりゃ引込管がもともと入ってたんやったら繋ぐでえ」

セイコー

「とりあえず現地掘ってみますわ」その日はそのまま事務所に帰った。

事務所で下水工事の見積書を作り、台帳などの資料を添付して”水道管については水道局の調査では既設管あり”ですが現地確認できておりま

せん。もし水道管が現地確認できなければ別途〇〇万円必要です。と追記しておいた。

Y部長から再び問い合わせがあったのはそれから3か月以上過ぎてからであった。

「〇〇町ってどやった？そろそろ工事の段取り入ってや」

調査して3か月以上たっていたので資料を見直した。

「そやっ水道探さなあかんねやった」

セイコー

「現場に機械入れて掘っていいですか？水道探させて下さい」

担当はY部長から〇山さんに代わっていた。〇山さんに施主の確認を取って頂き敷地内の間口を掘って止水栓探しが始まった。



まず、敷地間口の東面(台帳に記載されてある引込管があるであろう場所)を700mmほど掘ってみたが見当たらない。次に間口全体を同じく600〜700mmの深さで掘ってみたがやはり引込管は無かった。

そして○山さんとも話をして、無いものは仕方がないという事で水道引込の申請を水道局に提出した。すると3、4日してから水道局から電話が入った。

「ごうちに本管図があってやっぱり入れ替えてみたいやから引込工事必要ないん違うの?」決済が廻ったあと課長補佐からの電話だった。

セイコー

「その図面見せて下さい。もう一回調べますわ」

それが下の図面だが先程の図面と

なんの変わり映えもない。しかし

良く見ると引替ましたよと云わん

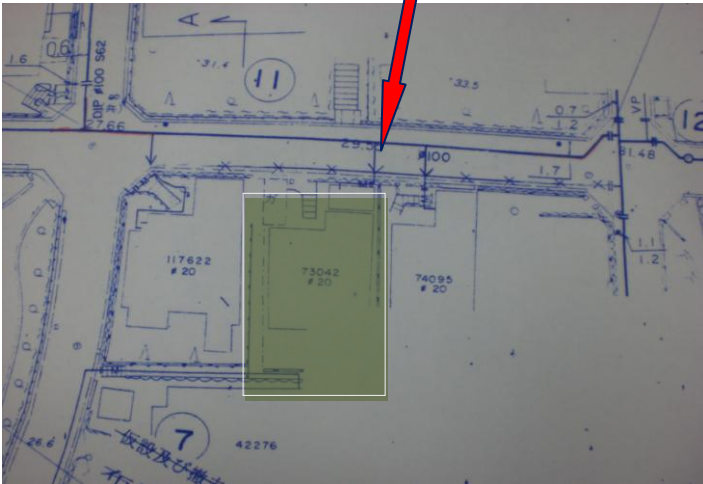
ばかりに矢印が書いてある。

でもここは散々掘って確認した場所

である。わたしは掘削状況の写真を

提出して説明した。

そしてあとにこう付け加えた



「そこまで入ってるいうんやったら、うち下水掘る時、道路も調べるんで入ってなかったら局の負担で入れて下さいよ」

水道局の答えは

「それはできへん」 なんじゃそれ?」

結局は水道本管を掘り上げても引込管はなく、分止してある形跡もなかった。震災の年である。そこまでやっている場合はなかったのだろう。台帳での調査だけでは真実はわからないという事だ。

こういう時は無線機を片手にこう言おう

「事件は水道局で起きてるんじゃない。現場で起きているんだ」

もちろんカーキ色のコートを忘れてはならない。

この現場の状況を整理してみた

もともとこの敷地には引込管があった。(上図の物件前面道路南側にある×しるしのある給水管の事である。)そして水道局の工事として本管が整備された。本来ならば現状復旧で引込管を道路で繋ぎ換えておくべきであろう。

しかし、震災後の復旧工事で忙しく引込替え工事はなされなかった。であればうちの宅内を掘った写真を状況証拠にやはり水道局負担で給水管の復旧工事をするべきではなかったのではないか。

しかし西宮水道局の答えは申込者負担であった。他市なら状況は変わっていたかもしれない。

しかしまあこんなにはつきり台帳に記載されているにも関わらず、水道管が無いとないやねん。毎日のように台帳めくって現場調べてやっていますけどなんせ昔の資料をもとに調査するわけですからそうはうまくい行きませんわ。台帳の図面だって業者の図面をもとに書くわけですからどこまで信用性があるかはわかりません。

水道屋が調べても「これが答えだ」などと大きな声でお答えできない場合もあります。引き出しの多い分何かとお役には立てることができると思っております。

まあ土地みつけたらセイコーに電話した方がええんちゃいまっか。

それでは皆様今月も良いお取引きを……。

ご紹介キャンペーン

お知り合いで神戸市での事業をされている方をご紹介ください。

神戸市はまだまだ工事代金の基準が高い傾向にあります(セイコーの周りだけかな)

とにかく神戸のお仕事を紹介いただいたお客様に契約代金の5%をお礼いたします。
(上限5万円)

《連載小説》

華麗なる水道屋

第十一回

なんとというタイミングのいい電話だろう。鉄平はすぐ電話のあるカウンタームがけ足早に席を立った。

「あおう。」

聞きなれないおとなしく控え目な女の子の声である。

「伝言もらってかけてるんですけどユカリです。」

鉄平はすぐにはわからなかった。

(そうだ)

「うわあめっちゃうれしい。今どこなん？」実は2日ほど前に伝言ダイヤルを使いメッセージを入れた相手からである。「ミナミで仕事をしているのでよかったら飲みに来ないですか」とメッセージを入れておいたのだ。まさかかかってくるとは。

「いま宗右門町の電話ボックスなんですけど、店の行き方わかんなくて」

「わかった。そこで待ってて」

鉄平はすぐに店を飛び出した。(ピンクのキャミソールに白のカーディガン、髪はストレートで肩より少し長め)これだけを頼りに鉄平は宗右門町にむかって走った。

《続く》